

令和6年度 中央区地域包括ケア推進会議 議事録

1. 日時 令和7年3月4日(火)13時~14時30分
2. 場所 あいれふ7階 第2研修室
3. 出席者 委員(15名)、関係機関(6名)、区役所職員(2名)、事務局(7名)
4. 会議次第

1) 開会 センター長挨拶、委員紹介

2) 会議概要説明

3) 会長、副会長の選出

4) 議題

【議題1】中央区の高齢者の概況や事業報告等

【議題2】令和5年度地域ケア会議報告、中央区の課題と取組方針

【議題3】令和6年度事業計画及び実施状況

専門部会報告、中央区の認知症になっても住みやすいまちづくり事業

【議題4】意見交換

①各団体の取組状況について

②中央区の取組方針の見直しについて

③市レベルで検討が必要と思われること

4) 閉会

5. 議事録

【議題1】中央区の高齢者の概況や事業報告等

事務局より資料に基づき報告。

質疑応答

(委員)活動状況は、コロナ前と変わらない状況に戻っているか。

(事務局)コロナが5類に移行後、徐々に活動は戻りつつある。

【議題2】令和5年度地域ケア会議報告、中央区の課題と取組方針

事務局より資料に基づき報告。

質疑応答

(委員)個別支援会議の本人状況をみると、女性が8割と多いがなぜ女性が多いのか。

(事務局)高齢者人口の比率的にも女性が多いためかと思われるが、明確な理由は把握できていない。

【議題3】令和6年度事業計画及び実施状況、専門部会報告、中央区の認知症になっても住みやすいまちづくり事業

事務局より資料に基づき報告。

質疑応答なし。

【議題4】意見交換

①各団体の取組み状況や課題について

(事務局)事前アンケートで伺った取組み内容の中で、新たな取組みや紹介しておきたい内容、補足の追加や課題に感じていることなどをご報告ください。

(委員) 中央区医師会は保健センターと一緒に、年 3 回の多職種連携研修会、年 1 回の市民公開講座に取り組んでいる。今年度から多職種の代表者の会議でグループ毎に新たなテーマを抽出するという形で、テーマの検討を行い、例年よりバラエティーに富んだ内容が出た。今後も様々な立場の方から意見を集めて多職種連携を進めていきたい。参加者が固定化傾向にあることが今後の課題。

(委員) 口の歯周病菌が体内に入り様々な病気を引き起こすと言われており、口の健康が体の健康に繋がっている。どんたくや歯科医師会館で開催している研修、公民館の出前講座で、オーラルフレイルや口腔機能低下症など様々な講話をし、市民に対し口の重要性を伝えている。歯科医師会では、歯科医院に通えない人を対象に、近くで開業している歯科医師と病院に行けない患者をマッチングさせる取組みを行っている。活動の周知が今後の課題。

(委員) 薬剤師会は健康応援薬局を目標に掲げ、薬を取りに来なくても何か相談があったら来てくださいと呼びかけている。来所時の動作や言動が気になれば、すぐいきいきセンターへ連絡するなど、立場をうまく利用して貢献したいと思っている。薬局は市民の出入りが大変多く、利用者の多くが保菌者で危険な面もあるので、集まるリスクを考慮しながら活動していきたい。課題は、薬の不足と制度改正への対応。今年からジェネリック以外の薬を希望する場合は特別料金の支払いが必要となり、混乱する患者への説明に追われている。

(委員) 圏域毎の連携会議やネットワーク会議、多職種連携研修会などへのケアマネの参加が増えている。また、ケアマネは高齢者の生活に直接関わって支援している。買い物を例に挙げると、高齢者はキャッシュレスの普及に伴い機械の操作が難しく自信を失うことで、買い物が億劫になり生活の幅が狭まってしまうような課題もある。認知症にやさしいまちづくり事業にも繋がるが、単に介護だけでなく生活全般の課題についても、今後連携していく必要があると感じている。

(委員) 福岡県理学療法士会では、よかトレ実践ステーションに取り組んでいるグループに、年 1 回体力測定を行っている。今年は 6 件回ったが、実際は 100 件以上のよかトレ実践ステーションがあるので、数年に 1 回しか回れないことが課題。体力測定も理学療法士が行うだけでなく、住民が自分で定期的に確認できるように、実施方法や体力の維持向上の方法を伝えていきたい。また、予防の重要性を強く感じ、病気になってからではなく、地域でより元気に暮らしてもらえよう活動に取り組んでいる。最近では、防災訓練や避難訓練で、車椅子の押し方やアイマスク体験、視覚障害者の方の介助方法について説明するなど、実際に地域住民の方に体験してもらい取組みも開始している。少しでも地域の方との関わりを増やし、元気に暮らしていけるような取組みを行っていきたい。

(委員) 福岡県医療ソーシャルワーカー協会としては、中央区に特化した取り組みや研修の実施、地域の活動への参加が難しく、地域住民の方と関わりが少ない状況にあることが課題と考えている。ソーシャルワーカーとして住民や患者と関わる機会が多いのは退院支援業務であり、その専門性を高めるために知識や技術の向上を目的とした研修を実施している。今年度は虐待対応についての研修会を実施、次年度は身寄りのない方や認知症高齢者への対応について、地域全体で支える取組みについての研修を開催予定。中央区内のソーシャルワーカーに情報提供を行い、研修への参加を促していきたい。

(委員) 中央区が含まれる 3 地区では年 1 回程度研修会を開催。日本看護協会も福岡県看護協会も地区の研究會も、地域包括ケアシステムを重要視しているが、実際には各病院毎の連携しか進んでいないと感じている。各病院毎に行っている地域包括ケアシステムの共有が大きな課題。本来の地域包括ケアシステムが生きていくよう、まずは地区の中で各病院の取組みや会議報告を伝えていきたい。

(委員) 衛生連合会は健康フェアやウォーキング活動を実施しており、健康に対する意識が強まっていると思う。

また、予防をテーマにした広報誌を年 2 回発行している。今後も興味を引くような広報誌づくりに取り組んでいきたい。

(委員) 公民館は、以前から健康講座や終活講座など、健康や自身のこれからの生き方等について学ぶ座学の講座を開催している。住民の方に健康維持に努めてもらえるよう、自治協議会等とも連携し、ウォーキングを含めた健康づくりのための講座や体操教室をできるだけ定期的に行っている。定期的に公民館へ来る方はいいが、やはり来ない方が心配。民生委員もオートロックの壁に阻まれて、訪問しても顔が見えない状況が続いているので、公民館と民生委員で連携していくことが大きな課題。

また認知症が疑われるような来館者への対応が課題。職員が認知症サポーター養成講座等を受講し認知症について学んでいる公民館もあるが、実際に窓口にこられた時の対応や家族への連絡調整が非常に悩ましい。実際にコロナが明けて、中央区各公民館へそのような状況の高齢者が多く来館している。様々なネットワークを駆使して、家族への連絡や住所の把握など行っているが、なかなかうまくいっていない。

(委員) 福岡県弁護士会は、行政や福岡市成年後見推進センターとの連携、具体的にはケース検討会議や受任者調整会議に弁護士が出席している。お金の管理や生活の支援が必要な方は、問題が多岐にわたり、弁護士や成年後見制度の利用だけでは問題は解決できないので、後見人がついた後も生活支援や医療など他職種と連携しながらフォローすることが非常に重要。

(委員) 認知症の人と家族の会では、ホームページでの情報発信や会報の発行を行っている。現在はネットを通じての介護相談が非常に増えている。また、介護や認知症に関する知識の相談や困りごとに関する相談よりも自分の話を聞いて欲しいという介護者からの内容が多く、傾聴を要するような相談が増えている。集いは、悩んでいる介護者に、色々な悩みを聞く機会を持ってもらえるよう、会員に限らず参加可能で、介護相談もいづれかの窓口で対応できるように月曜日から日曜日まで曜日を分けて対応している。認知症の日である 9 月 21 日に向けて認知症に関する普及啓発している。悩みをどこに相談したらいいのか | 人で悩む人たちに向け、自分の気持ちを聞いて欲しいときに思い出してもらい、相談することで気持ちが前向きになれるような心が繋がる相談窓口となるよう様々な取組みを行っている。

(委員) ラジオ体操やヨガ教室等の健康づくり、移動販売での買い物支援をしている施設もある。当施設では施設内で行っているラジオ体操や移動販売等の取組みについて、地域の独居の方なども利用できるよう検討中で、今後広く周知を行い、地域包括という形で協力していきたいと考えている。

介護施設の種類や特徴について、周知していくことが課題。申し込みをしても実際に順番が回ってくると、まだ入居の必要性が低いから入居しないという方が増えており、入居者の確保が困難な施設も最近多い。金銭面か、他の要因の問題かは把握できていないが、90 歳以上の方で辞退される方もいる。また、紹介業者を利用する入居者が増えている。利用者にとっては無料で簡単に施設が見つかり、入居までのサポートも手厚いというメリットがあるが、施設側としては近所の方が困ったときに、直接入居していただくのが一番いいと思っている。

(委員) 火災と救急の現状を令和 6 年の速報値で報告します。火災は、福岡市内で 279 件発生。死亡者 8 名中高齢者は 5 名。負傷者 52 名中高齢者は 17 名。救急は、昨年に続き 10 万件を超えており、市内で約 5 分に 1 回は救急出動をしている状況。搬送者の約 55%が高齢者。内容は、病気、転倒転落、餅等の窒息、お風呂での溺水など。最近では本人からの通報で、動けない、玄関を開けられない、家族や近隣者が安否確認に行くが、応答がない等の事案が年間約 900 件発生し、約 4 割弱が高齢者。

このような事案に対し消防局では救急車と消防車を同時に出動させ、関係者の許可を得た場合には、ベランダから侵入し、窓ガラスを割って中に入り、本人を救出する対応をとっている。今後さらに単身者が増えること

が予想されるため、対応方法について関係機関と検討する必要があると思っている。

これらの現状を踏まえ、消防局では、民生委員児童委員協議会の定例会で、家庭内の防火対策や救急事故対策、救急車を呼ぶか迷ったときの相談ダイヤル#7119 の活用などについて周知啓発しており、今後も継続したい。

なお、最近市内でも火災が非常に多く、死亡者数も去年に並ぶ勢いとなっている。消防局としても、様々な会議に参加し、火災予防の注意喚起や市内巡回広報等の取組みを行っている。

特に最近はコンロやストーブ、電気機器からの火災が多いため、取り扱いについて、身近な方に周知していただきたい。

(関係機関) 中央区社会福祉協議会は、見守り活動やふれあいサロン活動を展開している校区社会福祉協議会の活動を支援している。最近ではeスポーツ体験や事業所ネットワークの支援活動も行っており、今後も進めていきたい。また、協力が得られる方を地域活動につなぐ取組みを進めている。例えば、ふれあいサロン活動に施設から講師を招き福祉についての講話やレクリエーションをしてもらう等、地域と地域にある社会資源の方をつなぐことを進めている

(関係機関) いきいきセンターは、地域のサロンなど一般民間活動へ定期的に訪問し、包括の広報、介護予防や介護保険制度の啓発を実施。サロンや公民館活動は参加者が固定化していることが課題で、相談者にサロンを紹介しても参加しにくいという意見があるため、なるべく職員が同行し、行き場をつくれるよう支援している。

高齢化や認知機能の低下によって地域活動に参加できなくなり、介護保険サービスを利用した場合、地域に出なくなることもある。なるべく介護保険だけではなく、地域の活動にも出ていけるような取組みをしていきたい。中央第 1 圏域でも介護保険事業者より事業所ネットワークを作ろうという声があがっている。まずは事業所同士が繋がりを持てるように、今年度は年 5 回研修会を開催した。それを基に、地域の方との繋がりが持てるようなネットワークづくりをしていく方針。また、地域ケア会議を定期的に開催し、民生委員を中心とした地域の方とサービス事業者の繋がりづくりや専門職同士の情報共有などを行っている。

今年度は介護相談会を特定の地区で開催したが、今後は圏域内で範囲を広げるなど参加しやすい方法を検討したい。

単身で身寄りなし、金銭管理に支援を要する認知症の方の相談は増えており、権利擁護に関する他機関との連携が増えてきている状況。マンションが多く介入がしづらいことも課題であり、多機関との連携の必要性を感じている。

高台や坂が多い校区では買い物に関する課題が多い。小売店を巡回し社会資源の情報収集を行ったり、オンデマンド交通や買い物支援バス、インフォーマルサービスの紹介など特徴に応じた支援を行っている。地域へ見守り依頼をするなど連携を図っているケースがあり、個別支援会議の開催や安否確認、見守り体制づくりの取組みをしている。

自主的な活動であるラジオ体操や近隣の専門学生によるハンドマッサージなど多世代交流に取り組む地域カフェの後方支援を行っている。

(事務局) 多職種連携の必要性や事業所ネットワークなどの取組みが進んでいることが共有できた。また生活全般の支援が大切で、専門職だけではなく、日頃から利用する小売業の事業者などとも連携していく必要性があること、介護状態になる前から、元気な暮らしを支えていくための介護予防や健康づくりの必要性がわかりました。介護者の悩み相談が非常に多いということから、相談窓口の周知啓発に力を入れていきたい。

②今後の中央区の取組み方針について

(事務局) 中央区の取組み方針について、追加や見直したい内容があればご意見をいただきたい。

【提案】

(事務局) 現在中央区ではブロック支援病院に特化し連携しているわけではないため、中央区の取組み方針の4番目について「ブロック支援病院の機能を生かし」という文言を削除し、「病院と在宅医、医療・介護の多職種の連携体制の強化」と訂正したい。

(委員) 反対意見なし。

(事務局) 昨年度の会議で認知症の人への見守りネットワーク事業の利用者の増加について検討し、中央区の取組み方針の2番目に「認知症の人への見守りネットワーク事業の周知」を追加した。今年度は、中央警察署との連携や市民への啓発に力を入れて取り組み、来年度以降も継続して取り組むが、1つの事業であるため、あえてここには載せない形で修正したいと思うが、よろしいか。

(委員) 反対意見なし。

③市レベルで課題検討が必要と思われる内容について

(事務局) 区で解決困難な、市レベルで検討が必要と思われる地域課題についてご意見をいただきたい。

(委員) 認知症患者の家族からの相談のうち、電車に乗って外出し帰ってこないという相談が一番多い。区を跨って迷子になる方もいるため、市の会議に交通機関が加わってはどうか。

【その他】

(委員) 中央区の取組み方針の2番目について、「単身者」は若い人も全て含めてか。少し紛らわしい感じがするので言葉の検討が必要と思う。

(事務局) 単身者はどちらかというと高齢者の単身者を指している。よりわかりやすいよう訂正する。

(委員) 公民館やよかトレ、サロン等、中央区は活動の場は多いと感じているが、活動に出てこない方、外に来られない方へのアプローチとして何かいい方法があると早めに必要な相談先へ繋げられ、いい支援ができ、防げることもたくさんあると思う。中央区での取組みや区外で行っている取組みについて情報があれば、生かせるきっかけになる。初めて要介護認定を受けたら要介護3など重く、以前から支援の必要性があったと考えられる事例もあるので、早めに動ける方法が見つかるといいと日々感じている。

(事務局) 中央区は特に単身高齢者が多い状況で、察知したときにはもう後手に回っているという事例も数多くある。そのような方々が早め早めにアクセスできるような方策を、他区の情報、状況等も踏まえ検討したい。

(委員) 「高齢者の備えのサポート」について具体的な方向性や目指すこと、具体案を明確にしていきたい。

6. 閉会